



京都市立伏見南浜小学校 校長 今西 隆浩  
TEL 075-611-0091 FAX 075-611-5107  
minamihama-s@edu.city.kyoto.jp

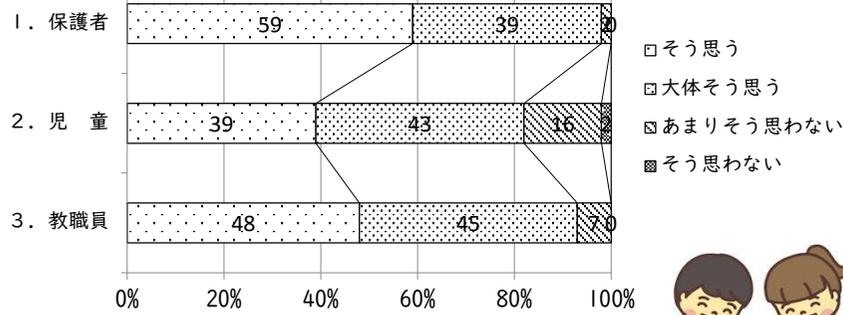


令和4年度 伏見南浜小学校  
第2回学校評価  
アンケート結果と考察  
~生活面~

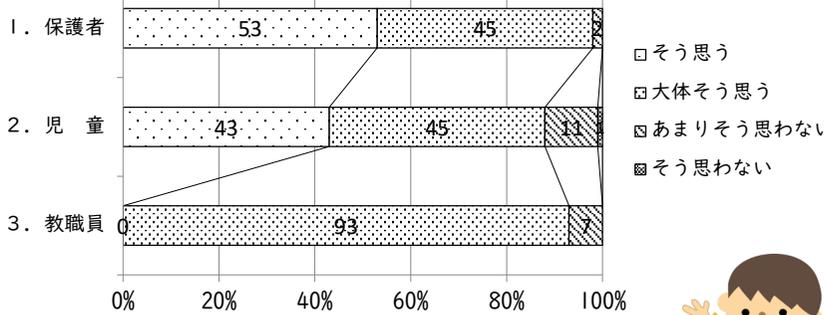
第2回 学校評価アンケート結果について

1月に行った学校評価アンケートでは、350件を超える保護者の方々からの回答をいただき、ありがとうございました。さて、本年度の第2回目の学校評価アンケートは、①~⑩の内容項目は、第1回に行ったアンケートと同じ内容でアンケートを実施しました。前回の結果と変化した箇所と保護者・児童・教職員の3者で捉え方に差があった箇所が見られました。また、自由記述欄では、

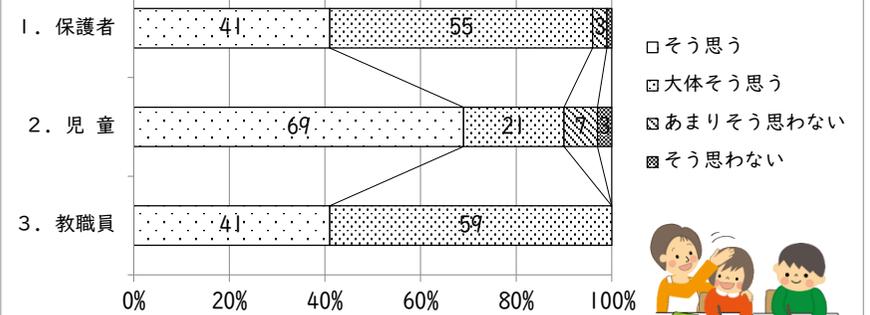
- ① 1. 我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。
- 2. じぶんからすすんで、あいさつをしている。
- 3. 子どもが自分から進んであいさつできていると思う。



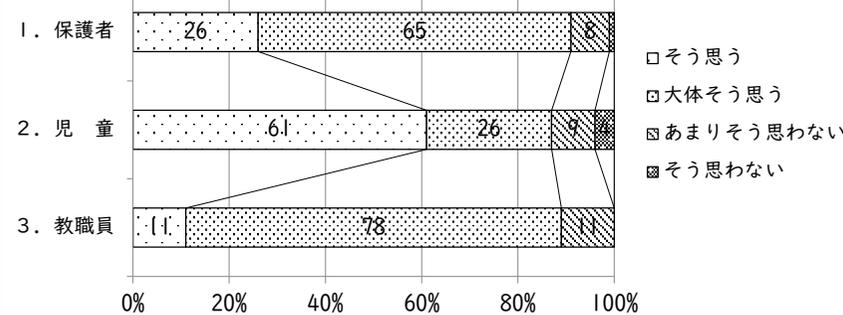
- ② 1. 我が家では、子どもに、自分の気持ちを言葉で伝えるように促している。
- 2. じぶんのきもちをあいてにわかるように、ことばでつたえることができています。
- 3. 子どもが自分の気持ちや考えを言葉などで表現できていると思う。



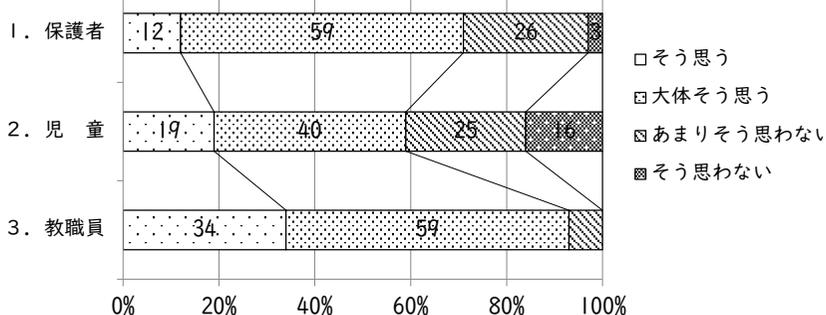
- ③ 1. 我が家では、子どものよさを認め、ほめる努力をしている。
- 2. おうちでは、がんばったことをほめてもらえる。
- 3. 子どものよさを認め、ほめている。



- ④ 1. 我が家では、子どもの交友関係を把握している。
- 2. おうちでは、ともだちのことをよくはなしている。
- 3. 子どもの交友関係を把握している。



- ⑤ 1. 我が家では、丁寧な言葉で子どもと会話をしている。
- 2. おうちでは、ていねいなことばでおはなしをしている。
- 3. 丁寧な言葉で子どもや保護者と話している。



今年度よりアンケートは、オンラインで実施しております。皆様にもご回答いただきましたが、目指す資質・能力の一つとして「つながる力」を掲げています。デジタルとアナログのそれぞれの良さを生かして、保護者の方ともつながれればと思います。



1. 生活面

①「あいさつ」は、本校が掲げている『伏見南浜小学校のみんなで大切にしたい4つの【あ】「あいさつ」「あざごはん」「あんぜん」「ありがとう』の一つです。前回の数値と比べると、保護者と児童には大きな変化はありませんでした。しかし、教職員の「そう思う・だいたいそう思う」が62%から93%へと31ポイントも増加しています。今年度、学校では、児童会が中心となり「あいさつ運動」を行っています。児童会の児童が校内を回りあいさつをよびかけ、元気よくあいさつができた児童の一部を給食時間中の放送でお知らせするというものです。あいさつレンジャーなるヒーローも登場し、楽しみながらあいさつの輪を広げていこうと高学年を中心に子どもたちで取り組みを広げられたことが、教職員のポイントの増加につながったものと考えます。あいさつをする気持ちよさやあいさつをしてもらううれしさに子ども自身で気づき、あいさつを広げていく活動をこれからも大切にしていきたいです。

②「気持ちを伝える」については、3者の捉え方について差が見られ、教職員の「そう思う」は0%となっています。教職員は、クラス全体・学校全体の児童を評価しているので、少数でも気持ちを伝えることに課題がある児童がいると「そう思う」とは回答しにくいと考えているためだと思われます。この項目では、その傾向がより大きくでていると考えられます。また、前回の結果と比較すると保護者と児童には大きな変化はありませんが、教職員の「そう思う・大体そう思う」が74%から93%に19ポイント増加しています。今年度、学校が掲げている目指す資質・能力の一つが「表現力」です。前回のアンケートでは、保護者の皆様からも「表現力を高めるためには」としてご意見をたくさんいただきました。そのご意見も参考にしながら、各教科・領域、教育活動の様々な場面で表現力を高めることを意識し学校教育を進めてきた成果が表れているのではないかと感じます。しかし、児童の12%が「あまりそう思わない・そう思わない」と感じています。「気持ちを伝える」ことについては、全体として向上していると考えられますが、「うまく表現できていない。思いを伝えることができていない。」と感じている児童もいることがわかります。保護者の方からいただ

③「子どもたちのよさを認め、褒める」ことについては、児童・教職員には、大きな変化はありませんでした。しかし、保護者の「そう思う・だいたいそう思う」は86%から96%に10ポイント増加しています。これは、大変うれしい結果です。人に褒められたい、認めてもらいたいという承認欲求は、2つに分けられるといいます。他者から称賛されたいという欲求と他者の評価から自立し、自分を承認できるかという欲求です。前者の欲求が満たされていないと後者の欲求を満たすことは、なかなかできません。周りの人がほめてくれる、認めてくれるから自己肯定感が高まっていくという構図です。自己肯定感が高まると何事にも積極的に取り組み、新しいことに挑戦したり、失敗しても自分自身の価値が変わるわけではないことを認識しているので、失敗を生かして次の挑戦に進みやすいなどと言われています。学校でも引き続き保護者の皆様と協力して、子どもたちを認めほめていきたいと思ひます。

④「子どもの交友関係」については、3者とも前回の結果と大きな変化ありませんでした。子どもたちは、学校の内外にかかわらず、友人関係の中でも大きな成長をしています。友だちとどんなことをして、何を感じて、どう伝えあっているのか。今後とも学校での様子をはじめとして「子どもたちの話を聴く」という家庭での環境づくりにご協力よろしくお願いします。

⑤「言葉づかい」に関する質問についても、大きな変化はありませんでした。言葉づかいや話し方で人が受ける印象は大きく変わるといわれます。学校では、様々な考えをもたれたご家庭からお子たちを預かっております。言葉の受け取り方も子どもによって様々です。ある子にとっては気にならない言葉でも、ある子にとっては大きなショックになることもあります。色々な子どもと一緒に成長していく学校だからこそ、みんなが気持ちよく感じる言葉づかいに引き続き気を付けていきたいです。